



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第6号

2021年5月26日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

北部中学校 服部SPとの出会い

5月20日、北部中学校の服部SPに会いに行きました。服部SP、コミュニケーション力の塊のようなSPさんでした。すごかったです。この日、服部SPは1年生の数学の授業に入っていました。活動している教室に近づいていったら、なんと、服部SPの周りに数人の生徒さんが集まっているのが見えました。驚きです。授業中に席を立って、SPさんに質問しに行くのです。中学生が。きっと「聞きやすい」「質問しやすい」雰囲気が服部SPにあるからでしょう。さらに驚いたのは、表情です。服部SPも生徒さんたちも、笑顔を交えながら朗らかに問題について話していました。担任の先生の授業づくりやSPさんに対する気遣いもとても大きいと思います。しかし、ここまで中学生がよい表情で勉強ができ、質問できるのは、他でもない服部SPの才能によるところもあるでしょう。またまたすごいSPさんを北部中学校で見ることができました。

授業の様子を見させてもらっている時、「服部SP、すごいな～！」と思うところを二つ見つけました。一つ目は、生徒同士の会話をよく聞いていることです。生徒同士で話しているところに耳を傾けて、表情を見て、「あまり納得いってないなあ」と思ったらすかさず声をかけていました。教員になる前に、ここまでスムーズに動けることや声をかけられることがすごいです。間違いなく、現場に出たら即戦力になるだろうと思いました。

二つ目は、現場の先生と話ができることです。服部SPと同じ大学出身の先生が現場にいらっしゃるそうです。その先生が、授業の終わりがけに教室に入ってきて、服部SPに近寄って行きました。服部SPもすぐに気が付き、授業の内容や疑問に思っていたことをすかさず質問していました。学校も、企業も、コミュニケーション能力の高い人材を求めています。児童生徒のみではなく、同僚や上司といった同じチームの仲間とも関係を築いていけるのは大事な能力です。服部SPは、その点もバッチリです。北部中学校の先生も、丁寧に答えてくださっていました。現場の生の声が聞けるという貴重な時間だったとおもいます。

実は服部SPは、東浦中学校の沢田SP（ウィークリーSP）からこのSP活動を紹介してもらい、参加を決めたそうです。沢田SPも意識の高い、とても魅力的なSPさんです。SP活動が始まった初期の頃から言われていた、「質の高い学生は、質の高い学生と繋がっている。呼んできてくれる」は確かだと思いました。学生さん同士の口コミでここまで広がり、質を高めてきた東浦町のSP活動……。これからも、活動しているみなさんに「東浦町のSP活動は勉強になる！」「ここで活動を続けたい！」と思ってもらえるように努めていきます。現場にいるみなさんの「生の声」にこれからも寄り添っていきます。SPさんたち、これからもたくさん話を聞かせてくださいね。

